

## LHR 学習指導案

学校名：鹿児島県立申良商業高等学
日 時：令和4年11月21日（月）
対 象：総合ビジネス科1年3組15名
場 所：1棟307号室
授業者：手島 健作（担任）
指導者：西村和昭（1学年主任）

### 1：主 題

「いじめ」はなくなるか。

### 2：ねらい

「いじめとは何か？」を見つめ、一人一人の心の中に他人の痛みや悲しみを理解し合う心を育て、「いじめ」は、なくなるものかを考えさせる。

### 3：指導にあたって

生徒が自分の考えをグループの中で明確に自己開示・自己主張できるように、「自己理解」を促す援助をおこなう。この活動の終盤では、将来像を描き、生徒の悩みである対人コミュニケーションに対する「どうしたらいいかわからない」などの考えから「どうすればいいか」「どうあるべきか」を生徒が自ら発見していくよう配慮した指導を心がけ、今後の集団生活に生かす工夫をするようきっかけをつくる。

### 4：生徒の実態

全体的に落ち着いた雰囲気のある学級である。15名という少人数の中で、これまで実施した学校行事などは協力的に取り組んできた。また、学級内の話し合い活動の場面では、積極的に発言する生徒がいる反面、自分の意見を相手に伝えることを全体の場では言いにくいと感じる生徒もいる。そのような状況を観察すると、話し合いを十分に持たずに発言の時間が多い生徒の意見がクラスの意見になる場面も過去にはあった。

そこで、今回のLHRでは構成的グループエンカウンターとディベートの要素をそれぞれに取り入れることで、自分の意見を話す場面よりも相手の意見を聞き合うような場面を多くもたせ、生徒ひとりが自分以外の級友の考えを見つめることができるかを観察し、生徒一人ひとりの考えにどのように影響するか。その変容に注目したい。

5：本時のLHR

段階	生徒の活動	指導上の留意点
導入	○「いじめ」は、世の中から「なくなる」ものか、それとも「なくなるしない」ものなのかについて考える。	○生徒が出す結果がどちらであっても、「いじめ」は良くないもの、という気持ちをもつような工夫をする。
展開	○事前アンケートの結果によって、「いじめ」に対する考えを把握する。  ○「いじめ」の発生を認識し、「いじめ」とは、「受ける側の人の気持ち」が重要であることを認識する。  ○「いじめ」は「心」への暴力で、「いじめ」を受ける側の気持ちを理解する。  ○「いじめ」をなくすためには、どのような手段があるか、または、ないのか意見を述べ合う。	○受けた人の割合や行った人の割合をパーセントで提示するなど、全員に結果を知ってもらう。  ○「いじめられた」と感じる時が、「いじめ」であることを理解させる。  ○精神的苦痛を与えることも、暴力の一つであることを、理解させる。  ○安心安全に集団生活を送る方法を、生徒の意見の中から板書などで例示し、全員に考えさせる。
まとめ	○全体での意見が、「なくなる」「なくなるしない」のどちらにまとまっても、「いじめ」は決して許されないものだとして認識する。	○「なくなる」か「なくなるしない」かの問題から、全員に「なくなっていて欲しい」という気持ちをもってもらい、今後の集団生活に生かす工夫をする。

6：参考文献

茨城県教育委員会 ホームルーム活動指導資料 ―明日を担う心を育むために―

- (1) 事前に「いじめ」の事前アンケートをとっておく。
- (2) 教師が中立な立場で議長役をつとめ、なくなる側となくなる側の2グループに分けて、議論させる。  
議論を展開する前に、小グループに分かれて、グループ内で意見交換させる。  
2グループでの討論が可能でない場合には、6人程度の小グループに分け、意見を集約しやすいようにする。
- (3) 「いじめは、なくなるしない」という結論に達しても、「なくなっていてほしい」という気持ちを、生徒の心の中に育てる工夫をする。

【資料】 事前アンケート（集計結果）

質問1 「いじめ」の定義（発生）についてどのように考えますか？

(ア) 悪意を持って、他人の「嫌がる」ことをした（言った）とき。5名

(イ) 意図しないところでも、受け取る側が「いやだ」「やめて欲しい」と感じたとき。6名

(ウ) 特定の誰かを集団（グループ）で「意地悪」をしようと、仲間で相談したとき。2名

回答なし 1名

質問2 あなたは他人から「いじめ」を受けたことがありますか？

(ア) ある 5名

(イ) ない 9名

質問3 他人を「いじめ」たことはありますか？

(ア) ある 1名

(イ) ない 13名

質問4 あなたにとって、一番いやな「いじめ」とはなんですか？

(ア) 暴力をふるわれる。 3名

(イ) 自分の欠点を他人のいるところで指摘（とりあげて笑うなど）される。

6名

(ウ) 周りから無視され、声をかけてもらえない。

3名

(エ) 持ち物を隠されたり、いたずらされたりする。

1名

(オ) その他 0名

質問5 他人がいじめられてる姿を見たとき、どうしますか？

(ア) 良くないことは率先して、止めさせる。8名



## 「簿記」学習指導案

日時 令和5年1月23日(月) 3校時  
場所 1棟3階307教室  
対象 総合ビジネス科1年3組13名  
授業者 教諭 手島健作  
指導者 教諭 吉福知明(商業科主任)

- 1 単元名 第Ⅲ編 第1章 決算(1)  
帳簿の締め切り(帳簿決算)
- 2 教科書 簿記(東京法令出版)
- 3 補助教材 全商簿記実務検定模擬試験問題集3級
- 4 単位数 4単位
- 5 生徒観

このクラスは男子5名・女子8名の合計13名である。授業中の問いかけにも積極的に発言する場面が多く、教科担任とのコミュニケーションも兼ねて発言しているような側面も多くあるように感じる。また、最近の授業は検定学習に励んでおり、個別学習個別指導の場面が多いのが現状である。そのような状況の中で生徒は検定合格のためだけの学習に留まっており、簿記に対する理解も浅い印象を受ける。

### 6 指導観

生徒観を踏まえ、今回の授業は「何が違うのか」や「どのように違うのか」などの発問を適宜取り入れ、生徒の興味関心をできるかぎり引き出したい。また、振替仕訳からの勘定記入と直接記入を比較させる中で、生徒自身が気付いたことを生徒自身の言葉で説明する時間を設け、どのような思考の変容がみられるかを観察する。

### 7 本時の内容

教科書の設例と自作のプリントを用いて、帳簿決算と繰越試算表の作成を行います。授業の後半では繰越試算表と貸借対照表のちがいについて主体的に話し合い、表現します。

### 8 本時の目標

- (1) 総勘定元帳の勘定残高と決算整理事項から、帳簿決算と繰越試算表を作成する技術を習得する。
- (2) 繰越試算表と貸借対照表のちがいを考え、自分自身の言葉で表現する。
- (3) 繰越試算表の話し合いに主体的かつ協働的に取り組む。

知識・技術	思考・判断・表現	主体的な学習態度
総勘定元帳の勘定残高と決算整理事項から、帳簿決算と繰越試算表を作成する技術を習得しようとしている。	繰越試算表と貸借対照表のちがいを考え、自分自身の言葉で表現しようとしている。	繰越試算表の話し合いに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

9 本時の計画

	<p>&lt;生徒の学び&gt;  <b>学習内容</b>・学習活動</p>	重 点	記 録	<p>&lt;教師の働きかけ&gt;                      ・評価規準 <b>評価方法</b></p>
導 入	<p><b>前回の振り返り</b>                      ・決算の流れを再確認する。</p> <p><b>目標をつかむ</b>                      ・目標をワークに書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>帳簿決算と繰越試算表の作成を行い、繰越試算表と貸借対照表のちがいを発見し、自分なりの言葉で説明しよう。</p> </div> <p><b>見通しをもつ</b>                      ・帳簿の締め切りとは何か確認し、必要な仕訳に気付く。</p>	知		<p>・決算手続きから決算報告までの流れを理解している。(ICT活用場面)</p> <p><b>観察</b> <b>問いかけ</b></p>
展 開	<p><b>1人で調べる</b>                      ・総勘定元帳の締め切る方法は何種類か調べ、その理由を考える。                      →2種類(英米式)</p> <p><b>1人で試す</b>                      ・資産・負債・純資産の帳簿決算から繰越試算表を作成する。</p> <p><b>ペア・グループで考えを伝え合う</b>                      ・作成した繰越試算表と貸借対照表のちがいについて話し合う。</p>	知  思  態	○  ○	<p>・総勘定元帳の締め切の方法を理解するとともに、関連する勘定記入をしている。</p> <p><b>観察</b> <b>問いかけ</b></p> <p>・教師の発問に対して、その答えと理由を見出だそうとしており、自分なりの言葉で表現しようとしている。</p> <p><b>ワークシート</b></p> <p>・繰越試算表と貸借対照表を比較し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> <p><b>観察</b></p>
終 末	<p><b>本時の振り返り</b>                      ・スライドを用いて振り返る。</p> <p>・授業のコメントを書く。</p>	態	○	<p>・本時の内容を整理する。(ICT活用場面)</p> <p>・繰越試算表と貸借対照表を比較し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> <p><b>観察</b></p>

## 目 標

--

## 学習のポイント

--

## 本時の流れ

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 目標をつかむ</li><li>2 見通しをもつ</li><li>3 1人で調べる</li><li>4 1人で試す</li><li>5 ペア・グループで話す</li><li>6 本時の振り返り</li></ol> |
|---|

P 1 8 4

決算では、すべての帳簿を なければならぬ。これを帳簿決算という。

総勘定元帳における帳簿決算とは何をすることか？
-------------------------

総勘定元帳における帳簿決算とはどのようにすることか？
----------------------------

ペア・グループワークの前に、総勘定元帳における資産・負債・純資産の各勘定口座を締め切る中で、気付いたことを書き出してみよう！

ペア・グループワーク

Q 繰越試算表と貸借対照表は何が違うか？見つけてみよう！（できるだけ多く）

Q 繰越試算表と貸借対照表はどのように違うか？役割などを考えてみよう！（調べてもOK）

本時の感想

---

---

---





# 繰越試算表

令和〇年12月31日

借方	元 丁	勘定科目	貸方
	1	現金	
	2	当座預金	
	3	売掛金	
	4	貸倒引当金	
	5	繰越商品	
	6	備品	
	7	買掛金	
	8	資本金	